

議題：ジカウイルス感染症の流行について。

1. ジカウイルスとは

ジカウイルスは、1947 年にウガンダの Zika forest (ジカ森林) でアカゲザルから初めて分離されました。このウイルスの感染媒介様式は、ネッタイシマカ (蚊) に刺される事です。ネッタイシマカはデングウイルスを媒介する蚊としても知られております。

臨床所見は、潜伏期は 2~12 日 (多くは 2~7 日)。

症状は、軽度の発熱 (<38.5℃)、斑丘疹、結膜炎を呈する疾患です。一般的に、同種の蚊により媒介されるデング熱より軽症といわれていますが有効な治療薬やワクチンはまだありません。

2. 予想外の感染拡大

ジカウイルス感染症は、不顕感染が 80%あり、発症例の大半が軽症例であることから、公衆衛生上のインパクトは概して低く、これまで注視される事はありませんでした。

しかし、2013 年仏領ポリネシア、2014 年にはチリのイースター島でアウトブレイクが起こり、2015 年からはブラジルを中心に南米大陸で流行しています。こうした地理的な感染拡大と、2016 年 8 月には、流行地のブラジルでオリンピックが開催される事から、蚊媒介感染症であるデング熱の流行地域である、東南アジアを中心にさらなる感染拡大が予想されております。

こうした事実を踏まえ、米国疾病予防センターや世界保健機構は、流行地で 2015 年 10 月から疫学調査を開始しました。

3. 思わぬ合併症/感染経路

疫学調査が進むにつれ、ジカウイルス感染と未知の合併症との関連性が示唆された事、また蚊媒介以外の新しい感染経路が判明した事から、検疫強化のみならず適切な措置を講じる必要が出てきました。

① 合併症

- ・胎児の小頭症

② 新しい感染経路

- ・ 性行為感染：既感染の男性から女性への感染
ウイルスの体液内潜伏の長期化
- ・ 胎内感染：妊婦が感染している場合の胎児への影響

3. 現時点での対応

① 流行地域の認定。(41 の国や地域：2016 年 4 月 5 日現在)

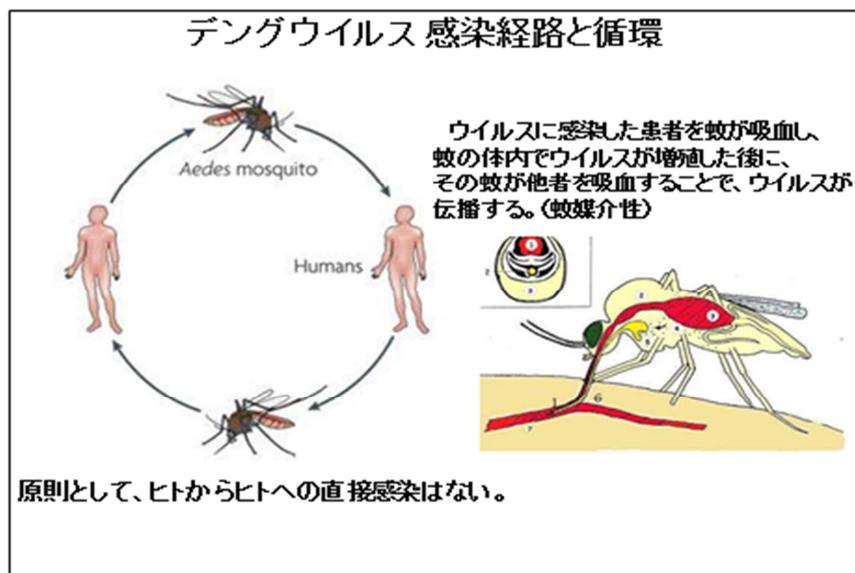
アルバ、バルバドス、ボリビア、ボネール、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、キューバ、キュラソー島、ドミニカ国、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、仏領ギアナ、グアドループ、グアテマラ、ガイアナ、ハイチ、ホンジュラス、ジャマイカ、マルティニーク、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、プエルトリコ、セント・マーティン島（仏領サン・マルタン及び蘭領シント・マールテン）、セントビンセント及びグレナディーン諸島、スリナム、トリニダード・トバゴ、米領バージン諸島、ベネズエラ、米領サモア、ミクロネシア連邦コスラエ州、マーシャル諸島、ニューカレドニア、サモア、フィジー、トンガ、カーボベルデ。

- ② 流行地からの帰国者は症状の有無に関わらず、帰国日から 2 週間程度の防蚊対策が必要と考えています。
- ③ 妊婦及び妊娠の可能性のある女性の流行地への渡航は控える事を推奨しております。
- ④ 流行地に渡航歴のある挙児希望の女性については、症状の有無にかかわらず 8 週間は妊娠を控えることを推奨しております。
- ⑤ 流行地に渡航歴のある男性について、パートナーが妊娠している場合、妊娠期間中は性交渉を控えるか避妊具を使用することを勧めています。パートナーが妊娠していない場合でも、ジカウイルス病を発症した男性は少なくとも 6 か月、発症しなかった男性については少なくとも 8 週間は性交渉を控えるか避妊具の使用を推奨しています。

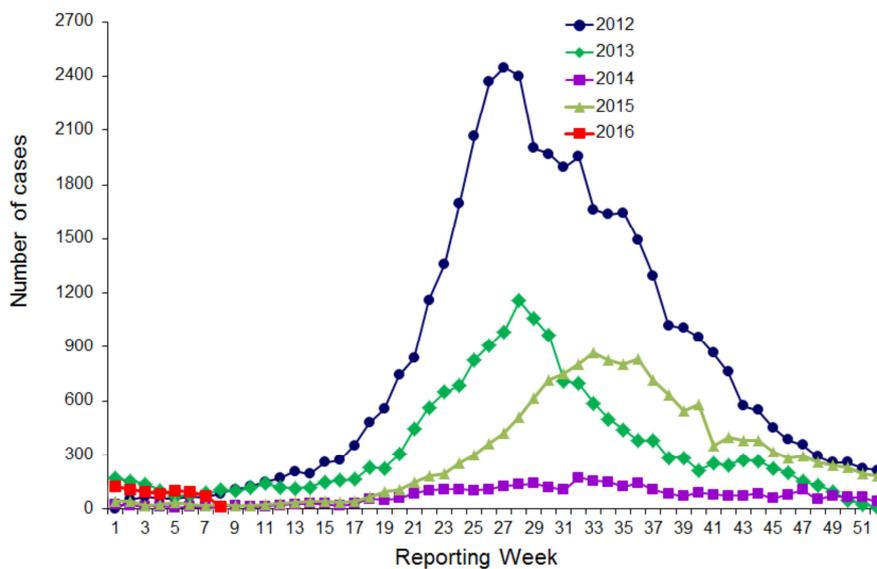
4. まとめ

ジカウイルスはネッタイシマカで媒介する事、カンボジア国民の大半がその免疫を持っていない事から、この数年の間に当地で流行する可能性は十分考えられます。この病気の重要性は、妊娠中または妊娠を予定している女性への流行時の対応にあると考えられています。事前に十分検討しておく必要があると思います。またどのような感染症が流行しようとも、日頃からの感染症対策こそが 1 番重要と考えております。

参考資料 1



デング熱の流行状況 (カンボジア王国)



平常時感染症対策

- ① 公衆衛生学的行動。
- ② ジカウイルス感染症の情報収集。
- ② 防蚊対策の徹底。
 - ・ 長袖シャツ、長ズボン、靴下を着用し、サンダル履きを避ける。
 - ・ 忌避剤を、用法・用量や使用上の注意を守って適正に使用する。